

矢作ダム

20号
2015.3

国土交通省中部地方整備局
矢作ダム管理所 広報誌



今号の表紙



平谷高原高嶺自然プラネタリウム
茶臼山、恵那山などを一望できる長者峰。天体観測に適した場所であることから、頂上には夏の星座が刻まれたモニュメント「高嶺自然プラネタリウム」が立っています。

特集

『ダムの総合点検』でダムの健全度をチェック

- ◆矢作ダムの水源地域による森林整備に関する意見交換会を開催しました。
- ◆矢作ダム湖周辺のフォトスポット

矢作水源フォレストランド通信

- ◆地域間の交流・連携を深める『水源地域交流ツアー』を開催。
- ◆『奥矢作森林フェスティバル』を開催。

矢作水源フォレストランド通信

矢作水源フォレストランドとは、愛知、岐阜、長野の3県・4自治体にまたがる矢作ダム水源地域の共通名称。平成18年3月に矢作ダム水源地域ビジョンを策定し、この地域の自立的、持続的な地域活性化活動を推進しています。このコーナーでは、矢作水源フォレストランドが行う活動の最新情報をお知らせします。

地域間の交流・連携を深める『水源地域交流ツアー』を開催。

協議会メンバーが、実際に現地を見て回ることで、協議会を構成する6地区（豊田市旭地区、豊田市稲武地区、恵那市串原、恵那市上矢作、根羽村、平谷村）それぞれが持つ魅力や特徴をより理解するとともに、水源地域の活性化を進めていくために、より一層地域間の交流や連携を深めることを目的に実施しています。

●第1回 交流ツアー【旭・稲武地区】／平成26年5月28日

旭地区では旭高原元気村、縁結び岩・天狗岩を、稲武地区では大井平公園、道の駅「どんぐりの里いなぶ」、タカドヤ湿地を視察しました。元気村の人工造雪機で作るゲレンデや牛の放牧場、どんぐりの湯等の集客施設、タカドヤ湿地や大井平公園の紅葉等自然を楽しめる施設等、旭・稲武地区が持つ多種多様な観光資源を見て回りました。



元気村の牛の放牧場



タカドヤ湿地

●第2回 交流ツアー【根羽村】／平成26年10月31日

根羽村は総面積の9割以上を森林が占めており、スギ、ヒノキを中心とした豊かな森林資源を生かした林業を行っています。第2回の視察では、根羽スギ・根羽ヒノキを使用して建設中の特別養護老人ホーム「なごみの里」や、木の駅プロジェクトの貯木場、根羽スギで作られた低コスト住宅などを視察し、森林整備から加工、販売までを一貫して行うことで生み出される高品質の製材品や、林業の発展による地域の活性化等を学びました。



「なごみの里」の薪ボイラー施設



木の駅プロジェクトの貯木場

『奥矢作森林フェスティバル』を開催。

平成26年7月19日、奥矢作レクリエーションセンターと矢作ダム管理所にて『奥矢作森林フェスティバル』を今年も開催しました。あいにくの空模様でしたが、水源地域物産展、中山太鼓の演奏、魚つかみ体験、矢作ダム見学などへ、約680名の方々に参加いただき、矢作川流域の交流を図りました。



矢作ダム見学(試験放流)



中山太鼓の演奏



国土交通省中部地方整備局
矢作ダム管理所

〒444-2841 愛知県豊田市閑羅瀬町東畑67
TEL.0565(68)2321 FAX.0565(68)2328
(ホームページアドレス) <http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi>

『ダムの総合点検』でダムの健全度をチェック

大雨による出水時には洪水被害を軽減し、渇水時には必要な水を補給するため、水力発電に必要な水を供給している矢作ダム。昭和46年の運用開始から、40年以上を経過している矢作ダムが、これからもその役割を十分に果たしていくために「ダムの総合点検」を行いました。今後は、今回の点検結果を踏まえて策定する「維持管理方針」に基づき、矢作ダムを適切に維持管理していきます。

矢作ダムの水源地域による森林整備に関する意見交換会を開催しました。



矢作ダムの水源地域（平谷村、根羽村、恵那市、豊田市）及び矢作ダム管理所が、矢作ダムへの土砂や流木の流入状況と森林整備に関する情報を共有し、意見交換等を行う場として、「矢作ダム水源地域の森林整備に関する意見交換会」を開催しました。

第1回目を平成26年10月28日に、第2回目を平成26年11月27日に開催。森林整備の現況を確認するとともに、今後の課題などに対する意見交換を行いました。



矢作ダムと紅葉



矢作ダム湖周辺の四季折々の風景をあなたもファインダーにおさめてみませんか



大野公園の桜

ダムの総合点検 ① 堤体(ダム本体)の点検



たわみ量（ダムの傾きの状況）、漏水量（水漏れの状況）、コンクリートのひび割れ状況の確認、コンクリートの強度試験等を行い、水圧（水の圧力）に十分耐える強度があることが確認できました。



コンクリートのひび割れ状況を確認しました。



コンクリートの強度試験を行いました。

ダムの総合点検 ③

斜面の点検



樹木を伐採し目視による点検等を行いました。

ダムを支える両側の斜面の木を伐採して点検した結果、水圧によって大きな力がかかる場所に問題がないことが確認できました。



伐採後

伐採前

ダムの総合点検 ②

減勢工の点検



破損箇所



破損したコンクリート塊。（長さ3.5m×幅2.0m×厚さ0.7m）

減勢工は、ダムの下に滝壺のような穴があくのを防ぐため、放流した水の勢いを弱める役割を果たしています。その減勢工の点検を行った結果、コンクリート床の破損箇所が見つかりました。（平成27年度中に修理を行います）

『ダムの総合点検』は、長期的にダムの安全性や機能を保持していく観点から、今後の維持管理方針を策定するため、特に長期的な経年変化の状況や構造物の内部の状況等に着目し、ダムの健全度を総合的に調査及び評価するものです。

ゲートなどの機械設備や、それを制御したり、観測や警報を発するための電気通信設備は毎年点検を行い、定期的に塗装や交換等を行っています。

矢作ダム建設以前の写真などから地域の歴史をひもときます

矢作ダムアーカイブ



③ 万場遺跡住居跡

現在は矢作ダム湖底となった矢作川に臨む段丘上に立地。縄文時代の集落が確認された他、古代の土師器・須恵器や中世の青磁碗が出土しました。



② 前畑遺跡から出土した縄文中期の土器片

縄文時代中期では石棒・土偶などの呪物が盛んに作られ、立体的文様のある大型土器が流行しました。

① 着工前の矢作ダム建設地

埋蔵文化財（遺跡）
矢作ダム上流の川岸段丘には、以前の調査により、多くの遺跡の存在が知られていました。これは、信州や美濃地方から矢作川を下って縄文文化が広がってきたためと推測されます。ダム建設工事に先立って、ダム貯水池内にある重要な遺跡について発掘調査を行いました。

